

[1] 全般

1、論文誌の目的と形態

本論文誌は、電磁波エネルギー応用に関する基礎、応用、またこれに関連する装置、設備、計測、シミュレーション等の諸技術に関する情報を発信する媒体であり、日本電磁波エネルギー応用学会機関誌(JEMEA Bulletin)と共に、webベースで刊行される。

2、論文誌の種類

本論文誌においては、以下の形式に分類される論文を掲載する。その他の内容に関しては、編集委員会の判断により掲載する。

学術論文：電磁波エネルギー応用に関する理論的、実験的に興味のある新規な結果を報告する論文

解説論文：当該分野における特定の内容に関し、解説を系統的に行ない、これをまとめた論文

レビューおよびクリティカルレビュー：当該分野における特定のテーマに関し、研究や技術の背景やその展開、今後の進展等に関し、既報の重要な論文を引用し、公正で分かり易く解説する論文(レビュー)、およびその中で内容の批判や著者の主張を積極的に取り入れる論文(クリティカルレビュー)

技術論文：当該分野における新技術やその開発過程の紹介、特定な技術に関する解説を行なった論文

レター：当該分野における実験・理論結果、新技術等で速報性の有る内容や新規なアイデアに関してまとめた短い論文。

3、投稿資格と原稿の必要条件

本論文誌の投稿者は、原則として JEMEA 会員とする。共著の場合、少なくとも 1 名は JEMEA 会員を含むこととする。原稿としては、著作権保護が無い記事で、タイムリーな内容の投稿を期待する。また編集委員会の依託により、特定の題材に関して、項目[1]-2に属する論文を投稿する事ができる。

4、投稿料

投稿・掲載費用は無料とする。非会員に執筆を依頼する場合、JEMEA から原稿料を支払う。原稿料として¥1,000(源泉徴収後の手取り)/頁の支払いを行なう。(今後、非会員による投稿に関してはJEMEA 会員との差別化のため、附則を定める事が有り得る。)

5、内容の公開

投稿された原稿に関しては、項目[3]で定める査読過程を経て、掲載が決定した後に、上述(項目[1]-1)のように、日本電磁波エネルギー応用学会(JEMEA)機関誌と別に、web ベースで年2回(9月、3月)刊行され、JEMEA 会員のみが閲覧可能とする。今後、所定期間経過後の一般公開も検討している。論文の別刷りは発行しない。

6、著作権

本論文誌に投稿された論文の著作権は、本会に帰属する。ただし著者および共著者自身が自著の原稿記事を複製、翻訳、転載などに利用する事は可能とする。転載に関しては論文誌編集委員会の許可を得る事が望ましい。

7、多重投稿その他不正行為

多重投稿や、その他不正行為(たとえば虚偽データの記載)等が判明した場合、投稿論文の掲載を中止する。

[2] 投稿原稿

1、使用言語、単位

使用言語は、日本語もしくは英語のいずれかとする。単位としては、SI 単位の使用を推奨する。

2、投稿原稿は、項目[2]-4 に示すフォーマットで Microsoft Word により電子ファイルとして作成し、Word ファイルおよび pdf ファイルを投稿する。

3、投稿方法

JEMEA の「論文誌投稿画面」からの投稿とする。

(URL:https://www.jemea.org/?page_id=1580)

論文審査以降の原稿のやりとりは、JEMEA 事務局の論文誌専用アドレス (ronbunshi@jemea.org)に電子メールにて送る(10MB 以下とする)。それ以上の容量の場合、個別に対応する。

4、原稿の形式

a~d を記述したタイトルページを作成する。

- a. 論文表題(Title)：和文の場合、英語表題必要
- b. 著者全員の所属(Affiliation)、和文の場合、英語での並記必要
- c. 概要(Abstract)：和文原稿の場合、英語概要必要、レターの場合、概要は不要
- d. キーワード(keywords, 6 語)を(和文原稿の場合、英文/和文並記)

会員に対して内容を分かり易くするために、英語で投稿された論文に対しては、著者と相談の上、編集委員会により日本語による題目、所属、概要、キーワードの併記を行なう事を検討しているが、今後投稿状況を鑑み検討を行う。

論文の長さは、図表込み約 A4 4~8 頁程度、レターでは図表込み約 A4 4 頁以下が望ましい。

原稿のフォーマットとしては、A4 の 1 頁に 2 段組み 24 文字、空白が上 25mm、下 30mm、左右 30mm、文字 10 ポイント、フォントは MS 明朝体(和文)もしくは Times & New Roman(英文)を使用する。図表中の文字およびキャプションは、英語が望ましい。(フォーマット例参照)

5、論文の構成

学術論文の場合は、概要(Abstract)、緒言(Introduction)、方法(Experimental もしくは Method etc.)、結果(Result)、考察(Discussion)、謝辞(Acknowledgement)、引用文献(Reference)、図表説明(Captions)などで構成されている事が望ましい。レターの場合、概要は不要とする。

[3] 投稿原稿の取り扱い(査読)

1、査読者の決定と審査

投稿された論文には、編集委員会で査読者を決定する。査読者は

- a. そのまま掲載可 (Accepted)

b.修正後掲載可(修正原稿を再度査読者が確認するかについては査読者が判断する。(Minor Revisions)

c.根本的に修正した上で再提出 (Major Revisions)

d.棄却 (Rejected)

の4段階評価を1ヶ月以内に判定し、編集委員会に報告する。dの場合、編集委員会は他の査読者を迅速に決定し、再度判定を受ける。他の査読者が掲載可とした場合、掲載可否を編集委員長が判断する。2回の査読で棄却を指示された場合、掲載否とする。

2、原稿の修正および再提出

査読者に指定された箇所について修正した原稿は、査読者への回答と共に、1ヶ月以内に編集委員会に提出する。それ以上遅延の場合は新規投稿と見なす。

3、掲載の決定

編集委員長は、査読者により掲載を推薦された場合、その内容やコメントを検討し、掲載の可否を判断する。その後、編集委員会での承認を得て掲載を決定する。

4、受付日と受理日

編集委員会が原稿を受理し、原稿に番号を付与した日を受付日とし、編集委員会が掲載可と決定した日を受理日とする。

5、論文の校正

掲載決定後、原稿は著者の責任により最終校正を行なう。